

# 各地からの たより

各地の取り組みをご紹介します

- 置賜森林管理署
- 由利森林管理署
- 朝日庄内森林生態系保全センター

## 【H28森林保護員の任命】

置賜森林管理署

平成28年6月6日、置賜森林管理署において、平成28年度の森林保護員（グリーンサポートスタッフ）の任命式を行いました。

当署では平成19年度から森林保護員を任用してきており、今年度で10年目を迎えることになりました。

この取組は、国内有数の原生的な天然林や希少な動植物等の生態を有する森林生態系保護地域において、植生荒廃防止等の保全巡視活動や入山者へのマナー向上、環境保全に対する普及活動を通して、当該地域の適正な保全管理の推進を図っていくことを目的としています。

今年度は、飯豊山周辺森林生態系



任命式の様子

保護地域を中心に巡視する飯豊地区が3名、吾妻山周辺森林生態系保護地域を中心に巡視する吾妻地区が4名の7名体制で行います。

任命式当日は、清水署長から、「例

年より残雪が少なく、また、今年から8月11日が国民の祝日「山の日に」となり、大勢の登山者が期待されるため、入山者のマナー向上の注意喚起をお願いする」と激励の挨拶がありました。その後、一人一人に辞令が手渡され、緊張した様子も見受けられましたが、森林保護員代表の力強い挨拶にうなずきながら、一同引き締まった面立ちで任務の大切さを感じていただいたところです。

引き続き、署担当から、森林保護員の業務内容の説明等を受け、活動における対応への質疑や意見等活発な発言があり、問題点の整理や、万一の対応処理等について共有し、有意義な研修会となることができました。

午後は、飯豊町大日杉登山口において合同巡視を実施、早速ジャンパー等を着用し、活動内容について全員で再確認しながら、ゴミ拾いに汗を流し巡視にあたっていました。

巡視終了後は、業務日報の書き方

や、写真の撮り方等について署担当から説明を受け、森林保護員としての役割を果たすことで、地域の宝である生態系保護地域の保全に資することを確認し、解散しました。

山の日は制定され、入山者の増加も想定されている当該地域において、入山者が安全に楽しく山の魅力を感じて帰っていただけるよう、森林保護員の活躍に期待するところです。



合同巡視の様子

## 高校生による林業体験

由利森林管理署

由利森林管理署は、平成14年から森林環境教育の一環として、県立矢島高校1年生による林業体験学習に取り組んでいます。



海岸林の役割等を説明

この体験学習は、高校における総合学習の一環として「地域の自然にふれあい環境問題を考える」というテーマで、毎年春と秋に学校側の要請により実施しているものです。

学習フィールドとなる水林海岸林(国有林)は、飛砂や強風から市民の生活を守り安全で快適な暮らしを提供する役割を果たしてきましたが、松くい虫被害によりその効果が減少しました。

こうした中、高校生が海岸林の再生作業の一部を担うとともに、環境への関心を深めながら地域へ貢献してもらおうことをねらいとして、5月

10日(火)、24日(火)にクロマツ林の本数調整伐を行いました。

最初に、当署より海岸林整備の目的や「山の日」等について説明した後、当署職員がノコギリの使い方を実演してから、生徒達は悪戦苦闘しながら、林の中に分け入りクロマツの根元近くを握り地際から切断していきましました。次々と伐採されたクロマツの搬出作業を終えると混雑していた林がきれいに整備されました。

その後、森林での体験の一つとして、孟宗竹のタケノコ採りに挑戦しました。苦勞して探し当てたタケノコをスコップを使いやっとの思いで掘り起こし、自然の恵みとの出会いを各々楽しみました。

生徒から「今日の体験は大変な作業だった、すっきりした林になり達成感があった」など初めての体験を振り返っていました。



クロマツの本数調整作業の様子

## 朝日山地における天然林推進に向けて

朝日庄内森林生態系

保全センター

6月14日(火)、山形大学農学部菊池准教授及び学生7名の協力のもと、庄内森林管理署大鳥森林事務所管内1・6林班い小班において、植生調査を実施しました。

この調査は、朝日山地森林生態系保護地域内に存在する人工林を針広混交林化を図りながら、将来は天然生林に導く手法を考察するための基礎データ収集作業となります。



旺盛な植生の中で懸命に調査

調査方法は、平成23年度に同箇所で行った委託調査の方法を継承し、10m×10mのプロット2箇所内において、胸高直径4cm未満、樹高1.5m以上の植生を全て調査し、

一本いっぽんにナンバリングする根気のいる作業です。

菊池准教授指導のもと、学生達は、小雨の中、ずぶ濡れになりながら懸命に作業に集中され、おかげで基礎となるデータが整いました。

今後、当箇所において下草刈払いを行うとともに、小学生を



植生の特徴を菊池准教授から指示

対象に行う森林環境教育として、山取苗、実生苗の植栽を併せて実施し、今後5年間モニタリングを継続し、植生の変化(生長量、発現個体等)についてデータを蓄積していきます。

この調査は、今後毎年実施する予定であり、山形大学との緊密な連携により意義のある取組みにしていきたいと思



測竿を用いたプロット写真(地上高約8m)